

令和7年度 習志野市立大久保小学校 学校経営方針

学校教育目標

「瞳を輝かせて現代を生きる子どもの育成」

学校の特色・実態

1 質の高い授業づくりと学力向上

1968年から始まった国語科研究では、常に子どもの主体的な学びを育てるための研究に取り組んできた。文学的文章を中心に読みを深める授業づくりに取り組んでいる。課題追及を通して、対話活動を充実させ、学んだことを言語化し書く活動・話す活動を大切にした授業改善に努めている。朝学習や家庭学習等の充実を図り、児童の確かな学力の定着を目指している。

2 一人一人を大切にする学習活動や特別支援教育の推進

「言葉の学校」としての自負をもち、情緒や思考の礎としての言語を大切にした学習活動を行っている。また、そのことを通して、いじめや体罰の根絶を目指している。学校全体が特別支援学級担当教員と連携を図りながら児童理解に努め、個別の支援計画をもとに、支援の在り方や進め方を協議している。個別の支援計画についての保護者との面談期間を学校の行事ととらえ日程を確保しているなど、学校体制を整えている。

3 保護者・地域と連携した読書活動・虫歯予防・交通安全・居場所づくり等の推進

読み聞かせの協力を得ながら、読書活動を推進している。また、市の事業であるフッ化物洗口に取り組み虫歯予防運動を実施している。登下校の際は、地域の見守りにより安全な登下校を行っている。校外での子どもの活躍を学校でも認め、大会等での入賞者を学校でも表彰している。

目指すべき姿

めざす子どもの姿

- 本気で学び、学ぶ楽しさを知る子ども
- あたたかく、思いやりのある子ども
- ねばり強く、挑戦する子ども

めざす教師の姿

- 教育者であることの矜持をもつ教師
- 豊かな人間性と思いやりのある教師
- ねばり強く努力し続ける教師

言葉を大切にする「言葉の学校」

めざす学校像

- 児童が安心して学べる学校
- 教師が喜びをもって教育活動に専念できる学校
- 保護者や地域が夢と希望をもてる学校

学校経営の重点目標

1. 心を潤す環境づくり
 - ①美しい言葉遣いの模範となる教師
 - ②心を潤し、語彙を増やす掲示物
 - ③読書の奨励
 - ④いじめ・不登校の未然防止と解消に向けた丁寧な教育相談
2. 生徒指導の機能を生かした「わかる授業」
 - ①「大久保学びスタイル」の共有
 - ②運動量・言語活動量の確保
 - ③毎時間5分間の「本気時間」
3. 日常的な体力向上と事故防止
 - ①体幹を鍛える
 - ②体力向上をめざす体育学習
 - ③危機回避能力を高めるための実践的な安全指導
4. 地域教育力の活用
 - ①「地域に開かれた学校づくり」のための情報発信
 - ②幼保小・小中連携の推進
 - ③学校運営協議会・学校協働本部を核とした地域との連携

重点目標を達成するための具体的方策

- (1) 「笑顔の登校・満足の下校」となる心を潤す環境づくり
 - ①挨拶や児童の呼称等を含め、明るく、丁寧な言葉遣いでのコミュニケーションを心がける。
 - ②四季を感じることでできるもの、児童の作品の模範となるものを掲示する。
 - ③本に親しむ習慣を身に付けさせるために、学校司書や市立図書館との連携を図る。
 - ④教育相談週間の確実な実施だけでなく、児童・保護者の気持ちに寄り添う相談を行う。
- (2) 「できた」「わかった」「やってみよう」を生む授業
 - ①仲間とともに学びを生み出す「あたかな聴き方」「やさしい話し方」を身に付けさせる。
 - ②自分で考える力を育む「本気時間」（脳に汗かく5分間）を1単位時間内に確保する。
 - ③個に応じたきめ細かな指導を行う。
 - ④失敗経験も含め、仲間と生き生きと活動できる体験活動を奨励する。
- (3) たくましい体づくり
 - ①日常生活のなかで「よい姿勢」を意識させることで、体幹を鍛える。
 - ②運動量を十分に確保し、充実した体育学習を行う。
 - ③具体的な場面における危機回避について自身で行動できるよう考えさせる。
- (4) 地域とつながる
 - ①学校ホームページや学校だより、学年だより等を通じて、積極的に情報発信を行う。
 - ②児童の発達を理解するために、授業や保育参観をはじめとする異校種間の連携を推進する。
 - ③学校運営協議会での意見をもとに、地域に愛される学校づくりを行う。